

インタビュー

生きる

子供が親を殺し、親が子供を虐待する。大人も子供も自ら命を絶つ。豊かなはずのこの国で「生きる」ことが損なわれているのはどういふわけか。「どうせ」だから」というシニカルな感情から抜け出して、自分が大きな命の連なりの中に生かされてあることを意識しようと、作家・新井満氏は語りかける。

取材・文千葉 望 写真栗原克己

作家 **新井満**

Man Arai

「生きる」実感が薄いこの国で、人々は何かを求め、新井満氏の著作に手を伸ばす。小説のほか、『青春とは』『千の風になつて』『自由訳 般若心経』など次々にベストセラーを送り出し、環境ビデオの製作者として、歌手としても活躍を続ける新井満氏。だが新井氏の人生観にもまた「今日と同じ明日がくるかどうかわからない」という感覚があるという。それでもなお、人間の命の連なりの中で自分の役割を果たすべきだという新井氏に、汐留にあるかつての勤務先・電通本社ビルの最上階で会い、「生きる」とこの本質についてお聞きした。その日は好天で、遠くの景色まで見渡せた。

人生観を決定づけた「新潟地震」

「このビルは東京湾や汐留地区を見下ろせて、眺望が素晴らしいですね。角度によっては富士山が見えます。」

新井 超高層ビルですので、眺望には恵まれています。しかしこのビルだって偉そうに建っていますけれど、いつジェット機が突っ込んでくるかわからないですよ。「9・11」のとき、世界貿易センターで働いていた人たちは驚いたでしょうね。あそこまで極端な例でなくても、日常的な危機は頻繁に起こり得ることです。今日を完全に終えられるという保証はほとんどありません。北朝鮮が核実験を実施したあとでは、その危機がさらに高まったと思います。だが

死者二六名、家屋全壊一九六〇戸、半壊六六四〇戸、浸水一万五五九八戸などの被害が発生した」の影響から生じたものですか。

新井 そうですね。明日も今日と同じ明日かどうかなんて、誰にもわからないでしょう？ 何が飛んでくるかわからないし、突然行き倒れになってしまいかもわからない。私の友人の奥さんは、山手線の改札で倒れてそのまま亡くなってしまった。まだ五〇代だったのに。わかりませんね、こればかりは。中には九五歳の日野原重明さん（聖路加国際病院名誉院長）は五年先までスケジュールが入っているそうですけれど（笑）。それはそれで素晴らしい。しかし私の場合はなかなかそうならないという経験をずいぶんしてしまっただので、人生観も変わってきて、今日の生き方も変わってきてざるをえないのです。

新井さんのその感覚とは、高校時代に経験なされた新潟地震（一九六四年六月十六日、マグニチュード七・五の大地震が発生。

地創造」そのままの光景を目にしました。あちこちに地割れが走り、あの大きな信濃川が一瞬にして干上がったかと思うと、そのあとに何メートルもの津波が襲ってくる。私は津波と競走したんです。のみ込まれないように必死で走りましたから。

あの年は新潟国体が開かれ、数日前に天皇后両陛下がいらして、できたばかりの橋を渡られたんです。その三日後に地震で崩落してしまいました。地盤が液状化して大爆発を起こした石油コンビナートは一週間燃え続け、結局米軍のヘリコプターが消火弾を投下してようやく消し止めました。情けなかったねえ、日本の技術では消せなかったんです。町並みもすっかり変わってしまった。それが高校三年生のときでした。

新潟地震は大きな揺れだけではなく、橋の崩落、石油コンビナートの大爆発、津波とさまざまな被害をもたらしました。

一年後に上智大学に入学して上京したのですが、その一月後、四谷の男子寮にいたときに突然腹痛を起こして救急車で運ばれたんです。最初のうちは舎監のスペイン人神父がいろいろな薬を持ってきてくれたんですが、ただこではない痛みでした。ところがま



あらい・まん 作家、作詞作曲家、写真家、環境映像プロデューサー、長野冬季オリンピック開閉会式イメージ監督など、多方面で活躍中。1946年新潟市生まれ、上智大学法学部を卒業。小説家としては1988年『尋ね人の時間』で芥川賞を受賞。2003年11月に発表した写真詩集『千の風になって』と、それに曲を付け自ら歌唱したCDは現在もロングセラーを続けている。日本ペンクラブ常務理事として平和と環境問題を担当。最近作に写真詩集『青春とは、動物文学『朱鷺のキンちゃん空を飛ぶ』自由訳 般若心経』『この街で』自由訳 イマジン』など。くわしくは公式HP「マンダーランド通信」(http://www.twin.ne.jp/m_nacht/)

青春時代の大病と再生がもたらしたものの

当時はPTSDなぞという言葉葉もなく、人々はひとりで耐えるしかなかった頃です。

新井 そうですね。結局大学に戻っても生きる意欲もありませんでした。救急車で運ばれたときに死んだほうがよかつたぐらいに思っていたほどです。ところがある日、四谷の土手を歩いていたら、連翹が今を盛りと咲いていたんです。あのあたりは桜の名所ですが、連翹も見事なんです。私はそのとき、異様に美しいものを見たような気がしました。本当にきれいでした。

一年前もそれを見ていたはずなんです。不思議なことに、その記憶がまったくなかった。つまり、網膜に映るといふこと

と意識して見るといふことは違うんだね。きれいなものというのは大した力を持っていると思っただけで、私にそう思わせたのはおそらく命というもののけなげな美しさだったと思います。

その経験があったから、新潟県中越地震のあと、被災地に花を送られたんですね。

新井 そうです。地震の一カ月後に義援金とは別に、カーネーションを一〇〇〇本送りました。それは、自身の経験から、美しいものがどれだけ人々の心を癒やすか分かっていたから。そのカーネーションは地震の一年前に台風で大きな被害を受けた北海道七飯町の花卉農家が栽培したものでした。

美の再発見と伝達こそが私の役割

連翹の美しさによって生きる力を与えられた新井さんは、その後電通に入社され、広告の世界で、また作詞作曲家としてさまざまな

活動を続けられています。作家としても活躍ですが、近年話題になったのは、『青春とは』『千の風になって』の翻訳や、『自由訳

ずいことに、救急病院的のベッドが空いていなくてたらい回しにされたんです。ようやく新宿の小さな病院が受け入れてくれたんだけど、運が悪いことにしばらく放っておかれて、いよいよ青ざめてきた。「これはいかん」と慌てて開腹手術を試みたら、腹腔内は血の海だったそうです。十二指腸が破れていた。

それは大変です。消化器の手術をすると、その後癒着などが起きて患者は苦しむことが多いですね。

新井 私もまさにそれでした。何度も腸閉塞を起こして救急車に乗る羽目になり、大学どころじゃないから新潟に帰って自宅療養を一年間続けたんです。せっかく大学に入って、仲間たちがキャンパスでさまざまな青春を楽しんでいるのに、自分だけ

が自宅で寝ていなくてはいけません。それはつらいですよ。新潟でもしよつちゆう腸閉塞を起こしていましたしね。翌年には復学したんだけど、これも全快というより「まあ、治ったことしよつ」という程度の話(笑)。病気の前は八〇キロもあった体重が半減して、顔つきも変わってしまつて戻ったときは誰も気づいてくれなかった。

それはかろうじて死んではないというだけのこと。夢も希望も理想もない状態です。あれがいわゆるPTSD(心的外傷後ストレス障害)だったと気づいたのは、阪神・淡路大震災でPTSDに注目が集まったときのことでした。あまりにもひどい衝撃を受けた心の傷が、一年後に十二指腸潰瘍となつて出てきたのでしよつね。

般若心経』『自由訳 イマジン』などのお仕事です。

新井 実は連翹の美しさに感動したあと、衝動を抑えられずにあたりを通行する人に「どうか足を止めて、この美しい花を見てください」と話しかけたんです。考えてみると、ちよっと危ないヤツですよ(笑)。案の定みんな変な顔をして通り過ぎるばかり。ところがある年配の男性だけが立ち止まって、私と同じように連翹を眺め、「なるほど、あなたの言うことはもっともだ。言われなければ私はきつと通り過ぎてしまっていたでしょう。教えてくれてありがとう」と言ってくれたんです。あれは嬉しかったなあ……。連翹の美しさを、自分以外の人々に教えてあげて喜びをシェアできたのだ、と。つまり、美の再発見と伝達です。

結局そのときの感動が、四年後

「色即是空」から「空即是色」へ転換する

『自由訳 般若心経』は、一
二〇〇年間日本人の間で親しま

に私を電通に入社させ、世の中の人が気づいていない美しいものを再発見し教えてあげる仕事に邁進させたのだと思います。一九歳の私は、瞬間的に「これが自分の役割だ！」と思つたらしいのですよ。入社後、それまではなかった環境ビデオというジャンルを作りました。世界中の美しい風景を再発見して、環境ビデオとして世に出していく。

それと同じような仕事で『千の風になつて』でした。あれは私のオリジナルじゃない。おそらくはネイティブアメリカンの誰かが作った英語の詩に私が感動して、翻訳したものです。『青春とは』もそう。一〇〇年以上前のサムエル・ウルマンという人が作ったまま埋もれていたのを再発見して、写真詩集にしたんです。どの仕事もみな美の再発見と伝達という点で共通しているでしょう？

れてきた「般若心経」を、新しい視点で訳されたもので大変な

評判となりました。特に「色即是空」よりも「空即是色」に注目された点が新鮮でした。普通は「色即是空」の無常観や諦念の部分が注目されますから。

新井 実はそこが私の訳では一番のポイントです。日本人はこれだけ長い間「般若心経」を読んできたけれども、好きな部分は「色即是空」なんです。般若心経の空哲学イコール「色即是空」。万物は変化し、そして滅びるということです。それだけで二〇〇年間引つ張ってきたんだからすごいことです。

『平家物語』の「祇園精舎の鐘の聲 諸行無常の響きあり」から『方丈記』から、近代文学に至って夏目漱石、島崎藤村、三島由紀夫まで、日本文学の伝統とはほとんど「色即是空」で作られてきたといつても過言ではない。でも、「般若心経」をよく読んでみると、確かに「色即是空」も大きな要素ではあるものの、「空即是色」というものも同様に大きな要素なんです。それなのに二〇〇年間誰も教えてくれないとはどういうことか。

二〇〇年間、私たち日本人は「般若心経」の半分しか読んでこなかったのではないか。

「色即是空」が、日本人が本来持っている情緒にぴったりきてしまったんでしょうね。

新井 きてしまったんです。好きなんだね、滅びの美学が。日本民族の美学と言つてもいい。どんなに栄華を誇つていても、最後には滅びるからいいんだな(笑)。「平家物語」も三島由紀夫もそうでしょう。日本人は昇る朝日を見るよりも、あくまでも夕日を見るのが好きなんだ。

しかし、「空即是色」から世の中を見直してみると、根本的に考え方や生き方が変わるような気がしますね。

新井 変わるでしょうね。「色即





新井先生と日本銀行情報サービス局長・湯本崇雄。

是空」だけで考えて生きていると、いつかは俺も死ぬんだ、滅びるんだという考えになる。でも万物は変化して生まれる、という意味を持つ「空即是色」ならまた再生してくる。自分が今この世にいるということは、自分もまた再生するのだと思えるでしょう。

自分を基点として一〇代前のお父さんお母さんまでさかのぼってみると、全部で一〇〇〇人の両親が必要なんです。それが二〇代前になれば一〇〇万人。これはすごいことですよ。一〇

自分ができることをするだけでいい

最近ではシニカルになって、「自分が反対したってどうせ戦争はなくなるらない」という人が増えているように思います。

新井 そういつう人に読んでもらいたい絵本が今売れています。「ハチドリ」のひとしずく いま、私にできること』（辻信一監修ノ光文社）がそれ。南米アンデスの古い話がもとなっていて、森火事が起きたと

〇万人のうち、誰か一人欠けても自分はこの世に生まれてこなかったことになる。この命の連なりを考えるならば、「生まれてきてあげたい」と思えるようになりますよね。「戦争はいけな」というのもそれが本質です。命と命のバトンタッチを絶つてしまつもの、それが戦争だから命がなくなつていけば「空即是色」で、自分もまた再生するかもしれない。奇跡のような因縁で存在している人の命を、戦争のような行為で傷つけてはいけないのです。

き、ほかの動物たちは逃げてしまったのに、ハチドリだけがくちばしに泉の水をためては森へ飛んでいき、それを撒いて火事を消そうとしたというお話です。ほかの動物たちはみんなハチドリをバカにして、「おまえ、いったい何をやっているんだ」と言うのだけど、ハチドリはそれに対して「私は、自分のできるところをやっているだけです」と答

える。ただそれだけの話。犠牲的な精神のことを語っているのですが、結局みんな自分の役割を発見し、それを果たしていくことが大事だと思う。自分にもささやかな役割があったからこの世に生まれたのだと。それが結局、美の再発見と伝達なのだと、地震と大病のあとで気づいたわけです。

これから団塊の世代が大量にリタイアする時代を迎えます。この人たちは今、「本当に自分が生きる」とはどういうことなのか」と自問自答を始めているような気がするんですよ。人生における自分の役割を模索しているというのが。

新井 それはもう、自分と自分の周辺の利益というものを考えないほうがいいですね。今までは自分の夢や理想、家族のことだけを考えて突っ走ってきたわけでしょう。利己ですよ、利己主義の利己。でもこれからはできる限り利他について考えてきたらいいと思います。悩んだら、自分が今後どれくらい社会貢献できるか考えてみるといい。

「般若心経」の中では、自分以外の人間のために何ができるか、人間以外の命のために何ができるかという言い方をしています。

新井さんが「般若心経」を訳されるきっかけとなったのは、九〇歳を過ぎて亡くなられたお母様の遺品の中に「般若心経」を発見されたからだろうかと思いました。お母様はたしか助産師さんとしてずっと現役でいらしたんですね。

新井 おふくろが取り上げた赤ん坊は三〇〇人以上だったと聞いています。考えてみると、病気で私が寝ていたときも、家の中では何人も新しい命が誕生していた。やっぱりおふくろの仕事は私にとって大きいね。こっちが死ぬの生きるのと言っているときに、オギヤーオギヤーといって生まれてくるんだもの。もし「空即是色」を職業にたとえらるとするならば、きつと助産師になるんじゃないかな（笑）。それは素晴らしいですね。どうもありがとうございます。

聞き手／日本銀行情報サービス局長 湯本崇雄